（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	社会医療法人松涛会	代表者	斎藤　妙子
事業所名	小規模多機能型居宅介護 やすらが丘	管理者	中島　一圭

法人・事業所の特徴	一人ひとりのケアを大切に利用者の意思を尊重した介護支援を目標に実施して参ります。「あなたの歓びがわたしの生きがいです」をスローガンとしています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	コロナウイルスの感染対策の為、会議は行えず。運営推進会議も本年度は、一度も開催できず。このような状況なので、意見は頂けませんでした。									

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	未だコロナウイルス感染症が落ち着いていない状況で、感染対策を十分に行い、可能な限り地域活動等に参加する。また、利用者の情報共有は引き続き行っていく。	コロナウイルスの感染状況は改善せず。運営推進会議も1回も開催できず。今回のサービス評価の会議もできず。このような状況では、地域活動への参加は難しかった。	なし	自己評価を行う事により、自施設の問題点、改善点を把握し、業務改善に繋げていく。情報の共有化や業務遂行する職員間の差が、問題であるので改善していく。
B．事業所のしつらえ・環境	現在もなお面会制限が強いられているが、常日頃から事業所の雰囲気に注意し、立ち寄りやすい工夫をしていく。離設０を目指す。	本年度は、面会制限が続いている。当施設は、入口のスペースでガラス越しの面会が可能であるので、恵まれている。気軽に面会が出来る雰囲気を作っていく。	なし	面会の制限がいつ解消になるか分からないが、制限が続いたとしても、気軽に来所でき、顔を見ることができる雰囲気は保っていく。
C．事業所と地域のかかわり	感染対策を十分に行い、可能な限り地域活動、行事などに参加する。また、地域の中におけるやすらが丘の役割を模索していく。	本年度の状況では、地域との交流はほぼ出来なかった。その中でも、隣の安岡ＫＩＤＳとのハロウィンイベントで交流できたことは良かった。子供達との交流で利用者様の笑顔が見られた。	なし	状況さえ許せば、地域との関りを作り出していきたい。地域イベントには積極的に参加していくし、役割を求められれば、果たしていく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事やイベントの参加は状況を見ながら実施していく。利用者一人ひとりの生きがいを十分に把握し、その為の行事など、施設でできることも増やす。	この点に関しては、ほとんど出来なかった。春の花見だけは、近隣の寺院に出かけ、気分転換を図れたことは良かった。	なし	外出できない期間が長かった利用者の方が大半なので、機会を見つけられれば、地域に出向いていく。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議が実施される場合には感染対策に十分注意しながらできる限り地域の方や行政の方と交流が図れるよう努力していきたい。	会議が一回も開催できない状況では、どうしようもない。4月からの異動で、やすらが丘に赴任したので、民生委員の方とは、電話での挨拶や、会議中止の連絡しか、行っていない。	なし	先ずは、運営推進会議を開催し、地域包括の職員や民生委員の方との関係を構築していく。それから、やすらが丘に求められている役目を探っていく。
F．事業所の防災・災害対策	今回も前回の改善計画と同様、消防団の方や地域住民に防災訓練に参加してもらうことで、地域貢献に繋げていきたい。	消防訓練は、10月に行ったが、コロナの感染状況の為、消防署員の来所も見合わせてもらった。3月にも訓練を行う予定であるが、状況がゆるせば、消防署員には、来所してもらう。	なし	年2回の火災に対する避難訓練以外にも、ＢＣＰの整備に伴う、職員への役割分担、必用物品の備蓄を行い、地域の防災拠点の役割を担えるようにしていく。